

八千浦中学校
学校だより

ゆ め や ち ほ

夢・八千浦

9月号

回覧

TEL:025-543-2783

Fax:025-531-1397

令和8年9月28日 発行

E-mail:yachihoj@jorne.or.jp

たよりの内容等の無断転載・無断使用を固く禁じます。



9月8日、全校の総合的な学習の時間に、八千浦地区出身のプロテニスプレーヤー坂詰姫野さんをお招きし、「生き方大座談会」を開催しました。世界を舞台に活躍する坂詰さんの言葉には重みがあり、「周りとは比べずに、自分のペースで取り組むこと。人にはそれぞれの速度がある。」「当たり前前を当たり前続けることが一番難しい。でも、続けることが大切。」「努力は実を結ぶ。しかし、結ばないこともある。」など、心に響く数々のメッセージをいただきました。また、9月17日には、3年生の総合的な学習の時間に、地域を支える4名の方をお招きし、「地域とともに生きる」をテーマに語り合いました。「なりたい自分」を考えるこの企画では、「どんな時でも、一人ではない。」「挑戦しないで後悔するより、挑戦して後悔した方が新しいことを見つけられる。まずは、何でも挑戦すること。」「あせらず、あきらめず、あなどらず。」といった言葉をいただきました。生き方を学ぶはずだった私たちが、逆に温かな励ましと力強いエールをいただく時間となりました。さて、皆さんはどのような自分になりたいのでしょうか。思い描く姿は人それぞれです。しかし、2学期が始まった今、日常の様々な場面で、次の一步に向けて準備を進める姿が数多く見られます。高校の体験入学に参加する生徒、放課後に分からないところを先生に質問する生徒、職場体験に向けて事業所を訪問する生徒、そして八千浦フェスティバルに向けて合唱が響く校舎。どの姿にも、この瞬間を大切にしながら懸命に前へ進もうとする思いが感じられます。1学期と比べても、生徒一人一人が確実に成長し、たくましくなっていることを実感しています。この秋、自分自身の成長に気づき、自信を深めながら、さらに大きく羽ばたいていくことを願っています。



晴天に恵まれ、爽やかな秋風が吹く9月5日(土)、八千浦地区明るい町づくり協議会主催の「海まつり」が下荒浜特設会場で開催されました。今年も多く生徒が参加し、運営の手伝いやステージでのパフォーマンスを通して、祭りを盛り上げました。「海まつり」は、八千浦地区の住民と小中学生、保護者が協力して企画・運営を行い、地域住民の融和を図るとともに、地域を担う子どもたちの郷土愛を育むことを目的として毎年開催されています。生徒たちは地域の一員として活動に積極的に参加し、多くの方々と交流を深める貴重な機会となりました。行事を支え、運営してくださった地域・保護者の皆様に心より感謝申し上げます。



自分たちで創る心地よい学校

保健委員会はみんなの応援団！

メディアコントロール週間



10/5～10/9 はメディアコントロール週間です。
この1週間で実施する取り組みを紹介します。

①メディアコントロールに関するクイズ

お昼の放送で、保健委員会がクイズを出します。
メディアの使い方、身体への影響などを、クイズで楽しく学びましょう！

②メディア使用時間、学習時間の記録

元気アップデーのように、毎日のメディア使用時間と学習時間を記録します。
毎朝、登校した人から Google Form の入力、送信をお願いします！

③学級対抗すごろく

みなさんが入力した Google Form を集計して、クラスの平均に応じてサイコロを振れる回数が決まるすごろくです。
クラスみんなの力で、サイコロの回数を増やそう！

〈ルール〉

- ・クラスの平均学習時間が、60 分を超えたら 1 回、さらに 10 分超えるごとに 1 回サイコロを振ることができる。
- ・クラスの平均メディア時間が、120 分より少なければ 1 回、さらに 10 分少なくなるごとに 1 回サイコロを振ることができる。
- ・サイコロの回数は給食の放送で連絡し、各クラス終了まで振る。
- ・最後に 1 番コマが進んでいたクラスの勝ち。



今回は保健委員会を紹介します。保健委員会では、「一人一人が健康的に過ごせる学校を作る」という目標のもと、手洗い場の石けん補充やフッ化物洗口の準備などの活動を行っています。

10月5日(月)から9日(金)に行われる「メディアコントロール週間」に向けて準備を進める保健委員会を訪問し、インタビューを行いました。

「メディアコントロール週間」では、3つの取組を実施する予定です。全校生徒が自ら意識を高めながら取り組めるよう、保健委員会ではクイズやすごろくゲームなどの準備を進めていました。委員長、副委員長は、「メディアコントロールの大切さは分かっているけど、実際に行動に移すのは簡単ではない。だからこそ、みんなが楽しく取り組みながら続けられるように工夫したい」と話してくれました。また、「風邪を引かないように」「けがをしないように」、一人一人が自分で自分の健康を守れるようになってほしいと願っており、「私たちはそのための応援団です」と力強く語ってくれました。その応援は、単に声を掛けるだけではなく、石けんの補充やフッ化物洗口の準備など、日々の活動を確実に行うことで、全校の仲間たちを行動で支えています。今回のインタビューを



を通して、私たちが当たり前だと思っている学校生活は、決して当たり前ではなく、保健委員会の皆さんの地道な努力によって支えられていることがよく分かりました。見えないところで仲間を支える保健委員会の活躍に感謝したいと思います。